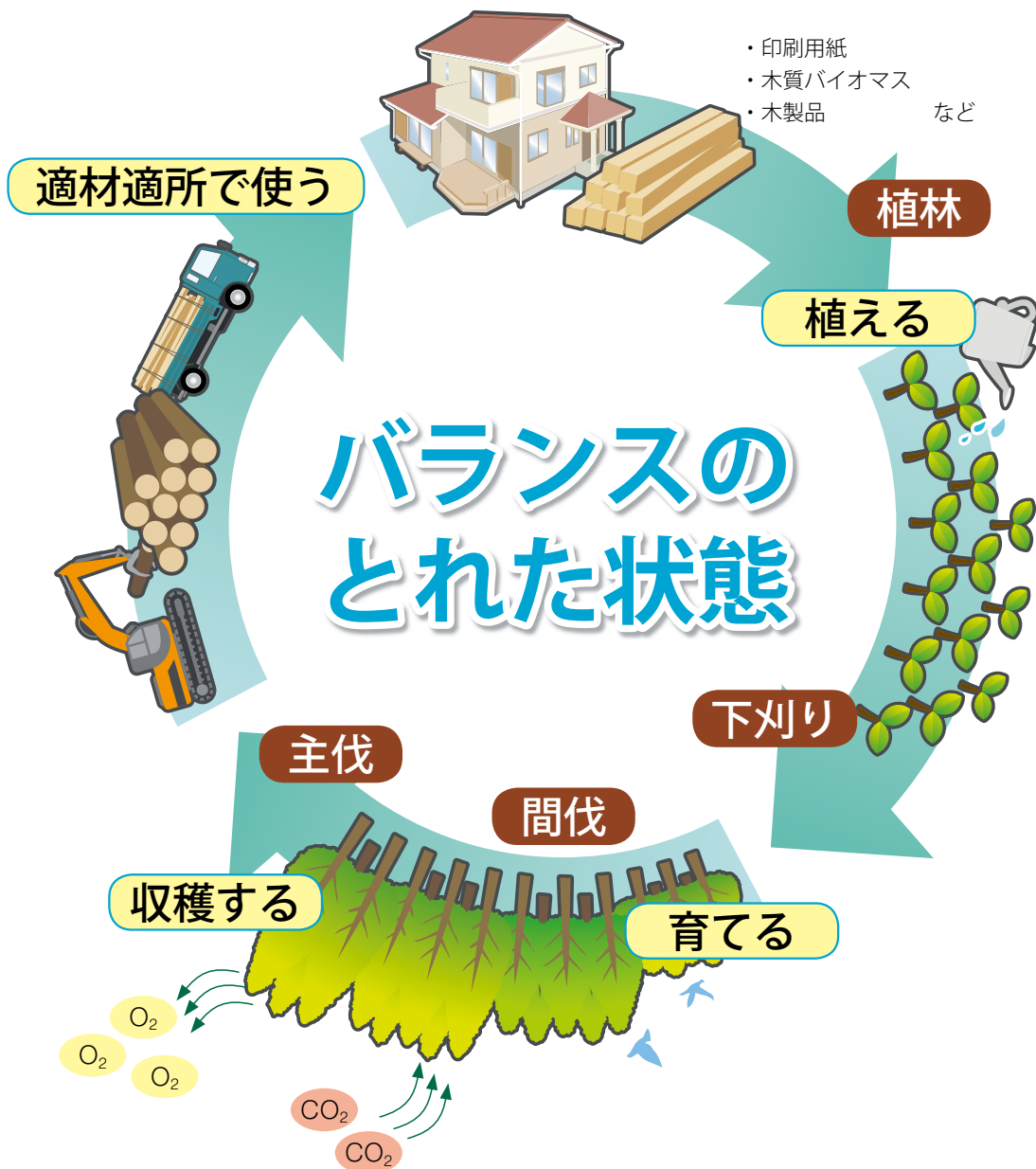


日本の林業の現状

日本の林業は、輸入材の増加に伴う採算性の悪化等により、生産活動が停滞してきたとともに、小規模な森林所有者が多数を占める構造となっています。また、木材の生産及び流通も小規模、分散的で多段階を経る構造となっています。これらのことなどから、国産材については、需要に応じた安定的、効率的な供給体制が構築できていない状況にあり、自給率は2000年の前半には18%台まで低下しました。

この結果、日本の森林は十分な手入れがなされず、荒廃が目立つようになりました。荒廃した森林は、公益的な機能を発揮できず、台風等の被害を受けたり、大雨等によって、土砂災害を起こしやすくなります。さらに、二酸化炭素を吸収する働きも低下し、温暖化防止機能も低下します。

健全な森林サイクル



なぜ森林保全は必要？

適切に管理された森林には、CO₂吸収に加えて、生物多様性の保全・水源涵養・災害防止など多くの機能があります。

持続的な森林機能を維持するためには、適切な整備（間伐、枝打ち、植林等）が必要です。

日本は国土の約7割が森林であり、世界有数の森林大国ですが、手入れが不十分で荒廃する森林が増加し、機能を発揮できない状況が進んでいます。

森林保全をサポートし、整備によって森林の健全な機能を発揮できるように守ることは、さまざまな地球環境保全につながります。

